

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『 社会人として自立し、自身の夢を実現させ、地域や社会に貢献できる人材を育てる学校 』

1 「社会人としての素養」を育む

「時間を守る」「挨拶ができる」といった基本的な生活習慣を確立し、時には厳しく寄り添いながら生徒への指導・支援を行い、生徒の「豊かな心」、「自尊感情」、「規範意識」を育てる。将来、地域の指導者として活躍できる人材の育成に力を注ぐ。

2 「確かな学力」を育む

基礎学力の定着を目標に、生徒自らが主体的に学び、考えをまとめ、発表できる力を育成する。また自学自習の習慣を身につける環境、学習支援体制を整え、教職員の「授業改善」に対する組織的な取り組みを推進する。

3 「未来を拓く力」を育む

生徒一人ひとりが自らの将来像を描き、希望や適性等に応じた進路を実現できる力を育む。また様々な課題を抱え支援を必要とする生徒に対しての関わりを深め、保護者・地域・中学校と連携をしながら、すべての生徒が安心して学校生活を送れる教育環境づくりに努める。

2 中期的目標

1 進路を切り拓く力の育成

(1) 「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善

- ア 生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。
- イ 教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等とおして「授業改善」を図る。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の授業理解度 80%以上を維持する。(R02: 68%、R03: 76%、R04: 83%)

(2) 基礎学力の定着、学習習慣の確立

- ア 少人数授業を積極的に取り入れ、基礎学力を効果的に身に付けさせる。
- イ 図書館を学校での学びのセンターとして位置づけ、調べ学習や自学自習の場としての利活用の推進を図る。
- ※ 図書館利用者数を年間 1200 人を維持する。(R02: 4020 人、R03: 2275 人、R04: 1377 人)

(3) キャリア教育の充実と希望進路の実現

- ア 「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を計画的に実施し、進路指導を充実させる。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の進路指導に対する肯定度 85%以上を維持する。(R02: 80%、R03: 83%、R04: 89%)

2 生徒支援体制の整備と豊かな人間性の涵養

(1) 一人ひとりへの支援体制の強化

- ア 生徒が安心して相談できる環境を整備し、課題を抱える生徒の状況を学年、人権教育委員会、生徒支援会議で的確に把握できる体制を作る。
- イ 生徒一人ひとりに必要な支援を行うために保護者、中学校、子ども家庭センター（子ども相談所）および各市町村の福祉関係機関などとの連携を図る。

(2) 生徒の「規範意識」、「自己有用感」、「人権意識」の醸成

- ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。
- イ 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や部活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、社会性を育む。
- ウ 「総合的な探究の時間」を中心に、3年間を見通した人権教育・国際理解教育を行い、人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。

3 安全・安心で魅力ある学校づくり

(1) 生徒が安心して安全に生活できる環境づくり

- ア PTA や同窓会等と連携して、生徒が安心して過ごせる安全な教育環境整備をすすめる。
- ※ 学校教育自己診断における施設・設備に対する満足度を生徒・保護者とも 60%にする。
(R02: 生徒 57%、保護者 59%、R03: 生徒 55%、保護者 57%、R04: 生徒 63%、保護者 52%)

(2) 地域に貢献できる人材の育成

- ア 地域の行事に積極的に参画し、社会への帰属意識を向上させる。
- イ 体育専門コースの充実を図り、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

- (1) 教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理や健康管理を徹底させる。
- (2) 校内ネットワークを含めた ICT の活用による、業務の効率化および情報の共有化を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>令和4年度と比較して、生徒結果では全22項目中17項目で肯定的回答の割合が上昇した。生徒数は減少しているが、満足した学校生活を送ることができていることが数値に表れていると考えている。</p> <p>また、保護者においては教育内容に関する項目をはじめとして、全22項目中11項目で肯定的回答の割合が下降したが、生徒結果と比較すると類似する項目であるにもかかわらず、結果に隔たりがあるものが複数見受けられた。授業や行事をはじめとする学校の取組みについて、家庭でも保護者と共有できるようHPやメール等の活用を通して丁寧に情報発信することで、生徒の成長を実感できるとともに安心して過ごせる学校であることをしっかりと伝えていく必要がある。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>生徒の「学校で勉強するのは大切なことだと思う」の項目における肯定的回答は、過去3年間を通じてポイント上昇がみられた。また、昨年度に肯定的回答が大幅に上昇した「先生はプロジェクターや生徒1人1台端末</p>	<p>◇第1回（令和5年6月23日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久しぶりに授業を参観させていただいた。クラス数は少なくなったが、今まで見た中で一番生徒たちがまじめに授業を受けていた。アンケート等の評価も高く、いい方向に向かっている中で、学校が縮小していくのは非常にもったいないという気持ちがある。家庭環境等が厳しい生徒もいると思うが、生徒にとっては人生の中で非常に大事な3年間であるので、しっかりとフォローをしてやってほしい。 ・今後も、教員が減らないよう対応をお願いしたい。これから生徒数が減少して、子どもたちの体育大会や文化祭などへのモチベーションが下がることを危惧する。学校に対する意欲が減るというようなことがないようにしてほしい。 ・生徒たちはとてもまじめに授業を受けており、授業アンケートの評価が非常に高いのも納得できる。先生方がしっかり生徒たちに向き合っているということが実感できる。最初の挨拶で、校長先生がこのすばらしい教育環境がなくなるのは寂しいと言っていたが、私も同感である。残りの3年間、生徒たちのために何ができるのかということをもみんなで考えてもらって、充実した学校生活を送らせてやってほしい。我々もできることがあれば協力したい。

を活用するなど、教え方を工夫している」「成績のつけ方について、十分に示されている」の2つの項目についてはさらに上昇し、今年はともに90%以上となり非常に高い結果になった。

一方、教職員の「生徒の実態をふまえ、指導方法の工夫・改善を行っている」の項目は肯定的回答が100%であった。生徒の実態が変わっていく中、教員が生徒の状況を把握しながら適切な授業づくりをめざして取り組んでいることが伺える。また、「教材の精選・工夫を行っている」「評価の在り方について、教科や学年等で話し合う機会がある」の項目の肯定的回答についても、それぞれ97%、94%と高い数値となり、生徒アンケートにおける評価が高い項目とも一致した。今年度は教務部を中心に、観点別学習状況の評価方法や新学習指導要領に対応した授業改善に向けて教員研修や授業見学会を実施するなど、学校全体で積極的に取り組んだ。少しずつではあるが、これらの取組みが着実に進み、学校全体に根付きつつあることが伺える。

【生徒指導等】

「学校は生活指導をきっちりとしている」の項目では、肯定的回答が生徒97%、保護者81%で、いずれも昨年を上回っている。教職員でも「生徒指導において、家庭との連携ができています」の項目で肯定的回答が97%で双方とも高評価であった。家庭と適切に連携を取ることで、本校が掲げている「時には厳しく寄り添いながら生徒への指導・支援を行う」という学校の指導方針が浸透しつつあることが伺える。

一方、「部活動は盛んである」の項目は肯定的回答が生徒49%、保護者46%と他の項目と比較すると低い割合となった。大塚高校との機能統合により、次年度より新入生が見込めないことから、今年度は運動部を中心に加入率が下がった。文化部については従来の活動を何とか維持しているものの、全体として校内で活発に活動する部活動が減少していることが大きな要因と考えている。

【学校運営】

生徒の「文化祭など、学校行事に主体的に関わりたいと思っている」の項目では、昨年度より肯定的回答が12ポイント上昇し86%となった。今年度は、生徒が行事に強い興味を持っていることから、生徒の主体性を促す形態への改善に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症による影響が減少し様々な規制の緩和が進んだことで、主体的に行事に取り組むことができる環境が整ったことが大きな要因であると考えられる。一方、教職員の「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」の項目についても、肯定的回答が昨年度よりも39ポイント上昇し、91%になった。改めて、新型コロナウイルス感染症に伴う、様々な制限による影響の大きさを実感させられる結果となった。

また、「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」の項目では、肯定的回答が昨年度よりも15ポイント上昇し88%であった。年々教員数が減少する中ではあるが、今後も学校運営の方向性をきちんと示すとともに、教職員間の意思疎通を大切にすることで、めざす学校像に掲げている『社会人として自立し、自身の夢を実現させ、地域や社会に貢献できる人材を育てる学校』に向けて取り組んでいく。

◇第2回（令和5年11月23日実施）

- ・授業アンケートの結果が、1回目より2回目の方が下がっているとの報告があったが、3.5を超えるような非常に高い数値なので、悲観する必要はまったくない。生徒たちはきちんと授業を受けていることが窺える。授業が分かる・分からないということ以外の部分に、目を向けてくれている生徒が多いということの現れ。ぜひこのまま続けていただきたい。
- ・閉校が決まってモチベーションが下がることで、アンケートの数値が悪くなるのではないかと考えていた。しかし、この大変よい結果を見ると生徒たちは閉校が決まっても心理的影響を受けず、何らかの目標や目的をもって生活できているのではないかと思った。これからも決して気をゆるめることなく、最後の学年まで進路面でいい結果が残せるよう導いてやっていただきたい。
- ・会社においては、一人一人の社員に得手不得手があるので、見たり話をするだけでなく、それぞれの社員の優秀なところ、努力が必要なところを書いたものを渡している。もらった本人は、自分はこういうところを頑張らないといけないということが具体的にわかる。学校においても、できるだけ具体的な評価をし、それをどう伝達するかということを考えてほしい。
- ・アンケートでの授業評価の数値が高いわりに、基礎学力が追い付いていないという点に矛盾を感じる。その原因についても考えていただきたい。
- ・美原高校では、生徒一人ひとりの様子を見ながら、手厚く横に来てわかるように教えてくれる。
- ・家庭環境が厳しい生徒は、それが当然だと思って育っていて、相談が必要な状況にあるのをあまり分かっていない幼さがある。そういう生徒に気付いてあげて、相談を受けられるよう導いてやってほしい。
- ・毎年、授業を見学させていただくと、生徒たちが本当に前向きに取り組んでいる。生徒のアンケートの結果を見ても数値が非常に高い。閉校が決まって、来年から1学年ずつ減っていく。今の1年生が3年後に卒業するまで、規模が縮小することによるデメリットに対応していただいて、生徒たちが色々な活動を気持ちよくやっていけるようお願いしたい。

◇第3回（令和6年2月20日実施）

- ・先生方の授業改善に向けた取組みの成果が、生徒のアンケートの結果にあらわれていると思う。ぜひ今後も続けていただきたい。
- ・教育の方針に対する生徒の満足度と保護者の満足度がかけ離れているのは、保護者がこの学校の教育内容や教育方法のよさを見る機会がないからではないか。家で生徒から保護者にこの学校のいいところを話してもらおうのが、それを解消する一番の近道であると思う。
- ・体育専門コースの希望者が必要な人数に届かず、次年度より閉校になるのは残念。希望していた生徒は残念に思っているだろうから、フォローをしてやってほしい。
- ・色々な性格、家庭状況の生徒がいる中、それに応じた支援体制がうまく機能していると思う。
- ・一般の会社でも病む人は多い。親がしんどくて子どもにあたってしまうということがあるので、親もケアしていかないと、この対応件数の数字は減っていかない。
- ・生徒数が減ると教員数が減る。先生方も健康にご留意いただいて心身をいい状態に保ち、いい授業をしていい生徒を育てていただきたい。それを無理なくできるカリキュラムを組むことが大事だと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 進路を切り拓く力の育成	(1) 「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善 ア 生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。	ア・グループワークやプレゼンテーションを取り入れた授業研究を進め、「主体的で対話的な深い学び」への取組みを推進する。 ・ICTを積極的に授業で活用し「わかる授業」への取組みを推進する。	ア・学校教育自己診断(生徒)「勉強することは大切」[89%]、「授業はわかりやすい」[83%]を昨年以上にする。 ・教員の授業でのICT活用度90%以上にする。[86%]	ア 「勉強することは大切」89.5%【○】 「授業はわかりやすい」81.6%【○】 ・「授業はわかりやすい」の肯定度は昨年を下回ったものの、「授業改善」や「学習評価」に関する教員研修等を通して、「主体的・対話的で深い学び」に対する教員の意識は学校全体で着実に向上した。今年度の取組を進めるため、1月に授業改善PTを立ち上げた。次年度は、教育センターの支援も受けながら取組を進めていく。 「授業でのICT活用度」90.9%【○】 ・リーディングGIGAハイスクールの授業見学への積極的参加(13名)に加え、「ICTに関する研修」を2回実施するなど、ICT機器の利活用を促進させる取組を行った。
	イ 教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等とおして「授業改善」を図る。	イ・公開授業・研究授業の実施や授業アンケート結果の分析を行い、授業改善・授業力の向上を図る。	イ・学校教育自己診断(生徒)「教え方の工夫」の肯定度を昨年度以上にする。[89%] 授業アンケートによる評価の平均値3.4以上を維持する。 [3.53]	イ 「教え方の工夫」90.6%【○】 授業アンケート評価平均 3.51【○】 ・授業公開月間(11月)に、全教員を対象に模範となる教員の授業を見学する取組を行うとともに、教員研修や授業アンケートの分析を通して授業改善に取り組んだ。今後は授業改善PTを中心に、授業改善及び授業力の向上に取り組んでいく。
	(2) 基礎学力の定着、学習習慣の確立 ア 少人数授業を積極的に取り入れ、基礎学力を効果的に身に付けさせる。	ア・少人数展開授業を全ての学年で取り入れ、基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて自己表現力の伸長を図る。 1年:数学、英語 2年:国語、数学 3年:国語、英語	ア・学校教育自己診断(生徒)「少人数によるきめ細やかな指導」を昨年度以上にする。[73%] 少人数展開授業アンケートでの満足度について昨年度水準を維持する。 [1年:国97%・数90%・英95% 2年:数78% 3年:国96%・英90%]	ア 「少人数によるきめ細やかな指導」82.8%【◎】 少人数満足度 1年: 数学(86%) 英語(92%) 2年: 国語(93%) 数学(81%) 3年: 国語(99%) 英語(82%) ・少人数指導を通して、個別にきめ細やかな指導を行うことで、生徒に基礎学力を効果的に身につけるように取り組んだ。結果は概ね高評価であった。【○】
イ 図書館を学校での学びのセンターとして位置づけ、調べ学習や自学自習の場としての利活用の推進を図る。	イ・学習に利用できる書籍の拡充(地域の図書館との連携も含む)および調べ学習や探究活動等、図書館を利活用した授業を推進する。	イ・公立図書館からの団体貸出を利活用する。 図書館利用数並びに貸出数を1200人 200冊以上を維持する。 [1377人(うち授業363人)・244冊]	イ 図書館利用数 1702人(授業 611人) 貸出数 286冊 【○】 ・公立図書館からの団体貸出を利活用するとともに、学校支援クラウドサービスで「図書館」の項目を作り情報発信するなど、積極的に図書館の魅力を伝えたことで利用数が増加した。	
(3) キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア 「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を計画的に実施し、進路指導を充実させる。	ア・3年間を見通した計画に基づき進路指導の充実を図り、早い段階から具体的な進路目標を持たせる取組みを推進する。	ア・学校教育自己診断(生徒)「適切な進路指導」の肯定度85%以上を維持する。[89%] 学校斡旋就職1次内定率85%以上を維持する。[91%]	ア 「適切な進路指導」89.1%【○】 学校斡旋就職1次内定率82.9%【△】 ・進路指導については、1年次からのきめ細やかで丁寧な取組みが評価された。 ・学校斡旋就職1次内定率が大きく下がった。原因としては、基礎学力の定着に問題があると分析しており、次年度は基礎学力向上に向けた取組を進めていく。	

<p style="text-align: center;">2 生徒支援体制の整備と豊かな人間性の涵養</p>	<p>(1) 一人ひとりへの支援体制の強化</p> <p>ア さまざまな支援が必要な生徒に対し情報共有しながら、組織として支援できる体制を整える。</p> <p>イ 生徒一人ひとりが抱える諸問題に必要な支援を行うために積極的に外部機関との連携を図る。</p> <p>(2) 生徒の「規範意識」「自己有用感」「人権意識」の醸成</p> <p>ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。</p> <p>イ 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や部活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。</p> <p>ウ 「総合的な探究の時間」を中心に、3年間を見通した人権教育・国際理解教育を行い、人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。</p>	<p>ア・学習を含め課題を抱える生徒の状況を学年、人権教育委員会、生徒支援会議で的確に把握し、指導できる体制を維持する。</p> <p>イ・SCを活用した教育相談窓口を機能させ、生徒一人ひとりへの細やかな対応を行うことにより、不登校等を減少させる。</p> <p>・SSWを積極的に活用し、保護者、中学校、子ども家庭センター（子ども相談所）および各市町村の福祉関係機関などとの連携を積極的に図る。</p> <p>ア・登下校指導、遅刻指導、校内巡回など生活習慣確立をめざす取組みを全教職員で行い、生徒が安全で安心して学べる環境を維持・発展させる。</p> <p>イ・体育大会、文化祭等生徒が主体的に企画・運営・参画する行事を充実させる。</p> <p>・新入生の部活動体験の実施や、部活動の成果を発表する機会を増やすことなどにより、部活動を顕彰する。</p> <p>ウ・いじめアンケートの実施やSNSをめぐる問題の学習などを通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を育む教育を実践する。</p> <p>・「総合的な探究の時間」の年間計画の中で国際理解学習を計画的に取入れる。</p>	<p>ア・学校教育自己診断（生徒・保護者）「親身に相談に応じてくれる」肯定度[79%・63%]、（保護者）「相談に適切に応じてくれる」肯定度[65%]を昨年度以上にする。</p> <p>イ・SCの活用回数について昨年度水準を維持する。[13回 18件]</p> <p>・SSWの活用回数について昨年度水準を維持する。[14回 14件]</p> <p>ア・生徒一人あたりの平均遅刻回数1.7回以内にする。[1.9回]</p> <p>・学校教育自己診断（生徒）「生活指導」肯定度90%以上を維持する。[93%]</p> <p>イ・学校教育自己診断（生徒）「学校行事」参加肯定度70%以上を維持する。[74%]</p> <p>・新入生の部活動加入率40%以上を維持する。[53%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断（生徒）「人権教育」に関する肯定度90%以上を維持する。[91%]</p> <p>・外部人材を招聘し、国際理解学習を効果的に行う。</p>	<p>ア「親身に相談に応じてくれる」生徒80.5% 保護者63.6%【○】 「相談に適切に応じてくれる」69.8%【○】</p> <p>・相談体制の整備が進んでいることから、課題を抱えている生徒についても、学年や分掌を越えてきめ細やかに見守る体制を築くことができている。</p> <p>イ SCの活用回数 11回 17件【△】 SSWの活用回数 12回 14件【△】</p> <p>・生徒数の大幅な減少も要因の1つではあるが、家庭環境に困難を抱えている生徒も多い中、自発的な相談が少なかった。今後は、生徒も含めて保護者へも積極的に情報提供を行うとともに、より相談しやすい環境を整えていくことで、生徒が抱える諸問題に必要な支援ができるよう取り組んでいく。</p> <p>・外部機関との連携回数は100件を超えるなど、積極的に連携強化を図った。【○】</p> <p>ア 平均遅刻回数2.3回【△】</p> <p>・遅刻指導については、配慮が必要な生徒もいることから、個別に状況をふまえながら丁寧に行った。その結果、昨年度を上回る回数となったが、学校教育自己診断（生徒）「生活指導」の肯定度は96.9%に上昇した。次年度についても、個々の生徒の状況をふまえたうえで、指導をより充実させることで、平均遅刻回数が下がるように取り組んでいく。</p> <p>「生活指導」肯定度 96.9%【◎】</p> <p>・生活指導の取組みについては、個別の生徒事情をふまえたうえ適切な指導を行うことで高評価を得た。</p> <p>イ「学校行事」参加肯定度 85.5%【◎】</p> <p>・学校行事を、生徒の主体性を促す形態に改善を進めたことから高評価を得た。</p> <p>新入生の部活動加入率 40.0%【○】</p> <p>・運動部を中心に加入率は低下した。一方、文化部では例年通りの入部があり、盛んに活動する部活動も見られた。次年度は、成果を発表する機会を増やしたり活動を顕彰することで、部活動の活性化を図っていく。</p> <p>ウ「人権教育」に関する肯定度89.1%【△】</p> <p>・SNSをはじめ、外部講師による人権に関わる講演会を計3回実施した。また、1年生ではいじめ防止に関する取組みを3回実施した。教職員については、研修（2回）や定例会議を通して人権に対する理解が深まるよう取り組んだ。結果は目標値には及ばなかったが、次年度以降も改善点の精査を行ったうえで、豊かな人間性を育む教育に向けての取組みを充実させていく。</p> <p>・海外からの留学生による講演（1年）や青年海外協力隊の方々による講演（2年）、貧困や人権問題をテーマにした映画鑑賞（3年）を通して国際理解を深める学習に取り組んだ。また、2月には南アフリカの民族音楽と人種差別を題材にした講演会（1・2年）を行った。【○】</p>
--	--	---	--	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 安全・安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒が安全に安心して生活できる環境づくり</p> <p>ア 保護者への積極的な情報提供に取り組む。</p> <p>イ 地域と連携して様々な安全教育に取り組む。</p> <p>ウ PTAや同窓会等と連携して、生徒が安全で安心して過ごせる教育環境整備をすすめる。</p>	<p>ア・メール配信等により、(非常変災時の対応など)保護者へ迅速かつ適切な情報提供を行う。</p> <p>イ・地域の外部機関等と連携しながら、生徒の安全や安心を高める取組みをすすめる。(熱中症対策や防犯・防災、交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止等)</p> <p>ウ・PTAや同窓会等と連携した教育環境整備の推進および校内緑化活動の実施</p>	<p>ア・学校教育自己診断(保護者)における「HP・メール」利用度を70%以上にする。[69%] 保護者向け学校クラウドサービス・メール配信を30回以上行う。[51回]</p> <p>イ・自転車の交通事故件数20件以下を維持する。[18件]</p> <p>ウ・学校教育自己診断「施設・設備」の満足度を60%以上にする。 [生徒 63%、保護者 52%]</p>	<p>ア「HP・メール」利用度 64.3%【△】 「保護者向けメール配信等」35回【○】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期より校長ブログの開設をはじめとして、HPの更新に努めた。また、保護者向けにメール配信サービスへの登録も呼び掛けたが、登録者数は伸び悩んだ。今後は、非常変災時の対応などもふまえたうえで、HPやメール等を通して授業や行事などの学校の取組みや情報について、丁寧に発信を行うことで利用度の改善を図る。 <p>イ「自転車の交通事故件数」14件【◎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全講習会2回実施に加えて、集会時の注意喚起、登校指導及び下校指導の成果が出たと考えている。 ・地域の外部機関とも連携し、熱中症対策、防犯・防災、交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止、性犯罪防止などの講演・講習を行った。【○】 <p>ウ「施設・設備」満足度 生徒66.8% 保護者49.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災をはじめとして、生徒が安全・安心に過ごせるよう施設・設備を図ってはいるが、保護者の理解を十分に得ることはできなかった。今後は、HPやメール等を活用して適切な情報発信することで、学校の取組みについて保護者から理解が得られるよう取り組んでいく。 ・保護者満足度の数値は目標に達しなかったが、PTAや同窓会との連携を通して校内緑化活動などの環境整備事業に加えて、熱中症対策や図書館整備などの事業を行うことができた。【○】
	<p>(2) 地域に貢献できる人材の育成</p> <p>ア 地域の行事に積極的に参画し、社会への帰属意識を向上させる。</p> <p>イ 体育専門コースの充実を図り、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。</p>	<p>ア・生徒の地域のイベント等への自主的な活動を推奨し、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。</p> <p>イ・体育専門科目の特色ある授業の展開や防災教育の観点を取り入れた校内での野外体験実習等を実施する。</p>	<p>ア・地域のイベント等への部活動生徒の参加を積極的に行う。</p> <p>イ・体育専門コース選択生の満足度90%以上を維持する。 [2年 100%、3年 92%]</p>	<p>ア 支援学校との交流(生徒会、演劇部:計2回)をはじめとして、堺市高校茶道部 おもてなし茶会(茶道部)、地元地域の夏祭りボランティア(ダンス部)など、積極的に地域活動に参加した。【○】</p> <p>イ 体育専門コース満足度 97.0%【◎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コース授業を通して、全員が自らの目標を達成するなど、高い評価を得た。

府立美原高等学校

<p>4 校務の効率化と働き方改革の推進</p>	<p>(1) 教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理や健康管理を徹底させる。</p> <p>(2) 校内ネットワークを含めたICTの活用による、業務の効率化および情報の共有化を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最終退勤時間の目標時刻の見直し等の取組みにより、時間外労働の縮減を図る。 ペーパーレス会議の実施、一斉メールの配信など、業務の効率化のためのネットワークの活用をさらに推進する。 ネットワークを活用した分掌・委員会・学年での情報の共有化および教科内での教材の蓄積、共有化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の時間外労働月平均時間を30時間以下を維持する。[26.6h] 職員会議をすべてペーパーレスで行う。管理職からの連絡や、資料提供にメール配信等を活用する。[144回] 職員朝礼等の連絡事項は全校トップページより美原高校の連絡掲示板を活用する。[147回] 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外労働月平均時間21.1h【◎】 毎週水曜日を定時退庁日と設定し、定時退庁を促した。また、最終退勤時刻（目標）の設定を通して時間外労働の縮減を図った。 管理職（校長・教頭）からのメール配信544回【◎】 職員会議をすべてペーパーレスで行うとともに、事前に会議資料を共有することで、会議の時間短縮につながった。 連絡掲示板の活用311回【◎】 業務の効率化のためメール配信に加え、連絡掲示板の活用を進めた。 ネットワークの利用を通して、組織内の情報共有が進んだ。また、教科でも教材の蓄積・共有化が進んだ。
------------------------------	--	--	---	---